

# Salon

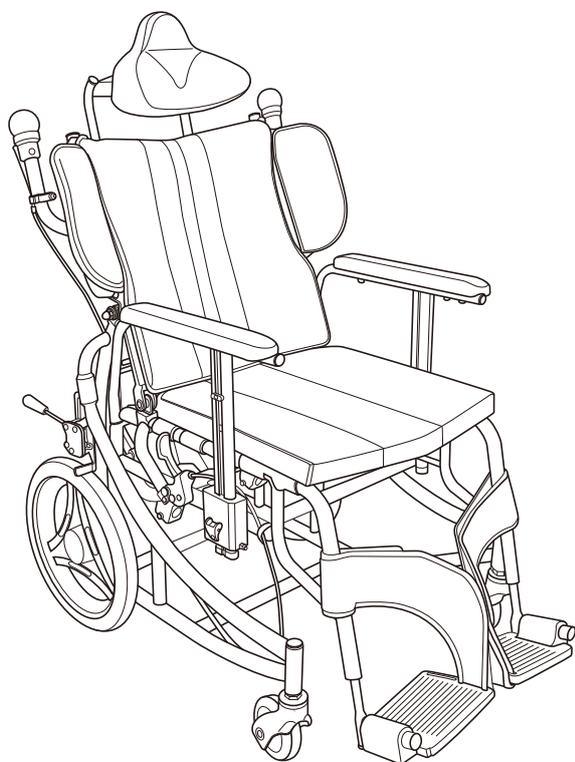
NEXTROLLER®

## ネクストローラー\_サロン 取扱説明書

### はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。



本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

### 目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
シートの取り付け・取り外し	6
バックサポート(背もたれ)の角度を変える(リクライニング機能)	7
アームサポートパッドの格納	8
各部の調節のしかた	8
フットサポートの高さ調節	8
ヘッドサポートの取り付け・取り外し・収納と調節	9
リクライニングレバー(搭乗者用)の取り付け位置変更	10
使用上のご注意	11
保守・点検	11
お手入れ・保管について	11
走行上のご注意	裏表紙
段差の乗り越えかた	裏表紙
段の下りかた	裏表紙
仕様	裏表紙

# はじめにご確認ください

本製品購入後、はじめて梱包箱を開けるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ・車いす本体
- ・工具 (スパナ2ヶ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ)
- ・ヘッドサポート
- ・レッグサポート (左・右) : 各1
- ・背アウターシート
- ・座クッション
- ・肩面アウターシート (左・右) : 各1
- ・取扱説明書 (本書)
- ・保証書

## 使用目的・特徴

本製品は室内向け手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的 (スポーツ・入浴など) のものではありません。

## 安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

### 【表示の意味】

-  **危険** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
-  **警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
-  **注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

### 【記号の意味】

-  警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
-  禁止の行為であることを告げるものです。
-  行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

## ⚠️ 危険

-  **スピードを出さないでください。**  
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



-  **リクライニングを倒した状態では、車いすの上で上体を起こしたり、立ち上がらないでください。**  
車いすの重心バランスが崩れて、転倒・転落の恐れがあります。

-  **急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。**

-  **エスカレーター (車いす対応エスカレーター除く) や、傾斜のある動く歩道 (オートスロープ) でのご使用は絶対に行わないでください。**  
転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

## 警告

⊘ 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。  
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

⊘ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。  
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。  
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

❗ 手押しハンドル、本体フレームに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。  
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⊘ アームサポートのみを持って車いすを持ち上げないでください。  
アームサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

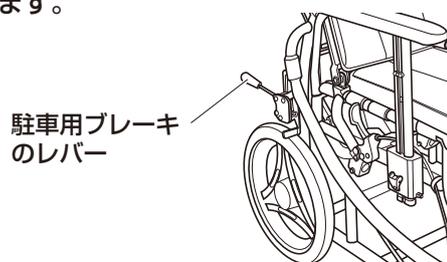
❗ 使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけ、主輪とフレームを持ってください。  
フレーム以外の部分を持つと、部品が外れて使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 駐車用ブレーキは定期的に安全点検を行ってください。  
(期間の目安：1カ月に1度)

❗ 介助者がリクライニング操作を行うときは、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。  
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

⊘ 走行中は、アームサポートの上げ下げ、リクライニング操作等をしないでください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

⊘ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。  
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



❗ 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。  
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。  
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒などの事故につながる恐れがあります。

❗ 乗り降りの際に上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。  
けがをする恐れがあります。

❗ タイヤの摩耗に注意してください。  
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

⊘ 車いすのフレーム構造を変更するような改造はしないでください。  
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因となります。

⊘ 前かがみの状態など、車いす前方へのみ体重をかけるような状況は、主輪が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。

❗ クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。充分注意してご利用ください。

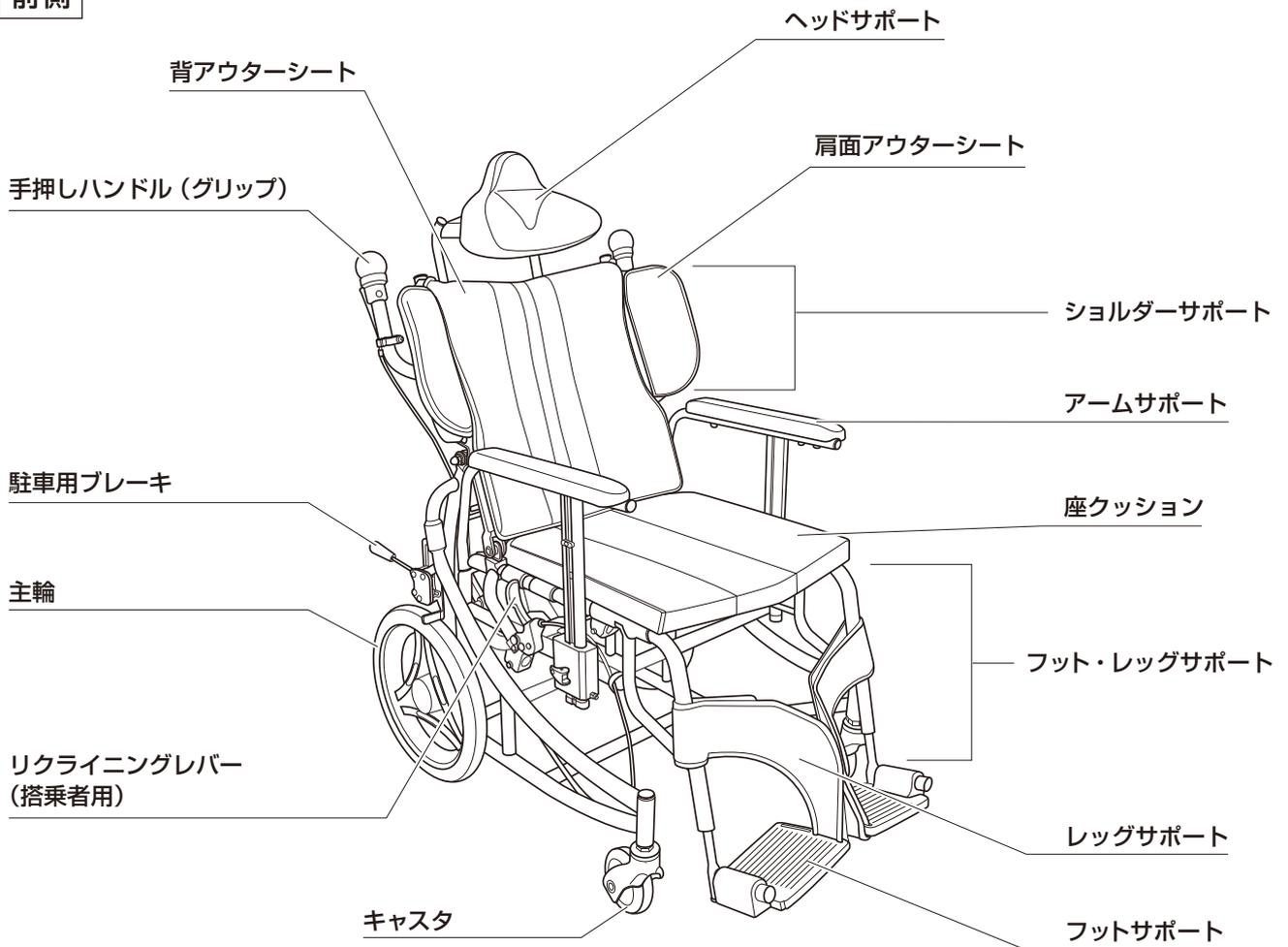
## ⚠️ 注意

- この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- フレームに最大荷重が記載されている場合は、荷重制限（積載物も含む）を守って使用してください。
- リクライニング時には、フレームの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
- 走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
- 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- バックサポートを後ろに倒した状態で背面アウターシートには腰かけないでください。転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。
- 暖房器具にタイヤを近づけないでください。  
 タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。  
 破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。
- シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。  
 製品を傷める恐れがあります。
- 介助者が操作する場合、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。
- ヘッドサポートを座面下に収納する際は主輪やフレーム、床などと干渉しないよう枕部の位置調整を行ってください。
- ヘッドサポートを収納した状態でリクライニング操作を行う時は、フレームに干渉しないように位置調整を行ってください。
- フットサポートの下に足を入れないでください。  
 足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- フットサポートを足で上げる場合は、素足で行わないでください。  
 けがをする恐れがあります。
- 使用する前に主輪、キャスト、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- 段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。  
 車いすの破損や故障の原因となります。
- 車いすを自動車に載せる際および降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。  
 車いすの破損や故障の原因となります。
- アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。

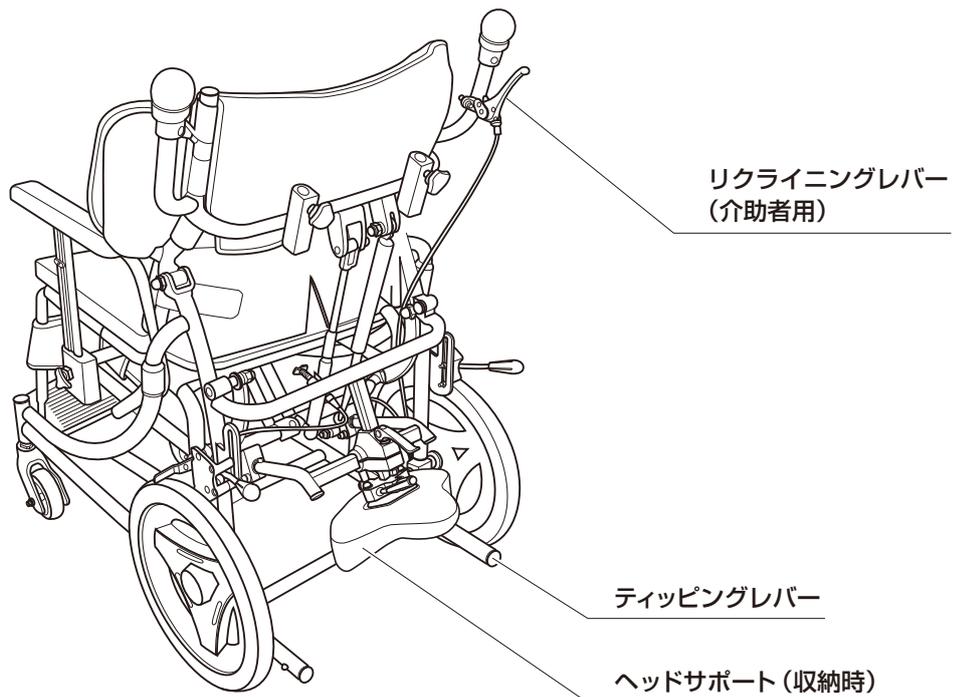


# 各部のなまえ

## 前側



## 後側



# 使いかた

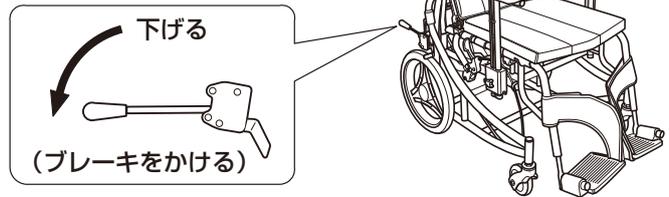
## ブレーキのかけかた

### 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があります、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

### ● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを下に押し下げてかけます。  
ブレーキレバーを上を引くと解除されます。



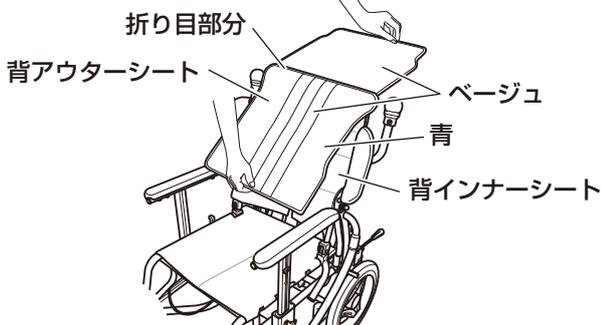
## シートの取り付け・取り外し

### 注意

- ・ 作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・ 使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・ 面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

### ● 取り付けかた

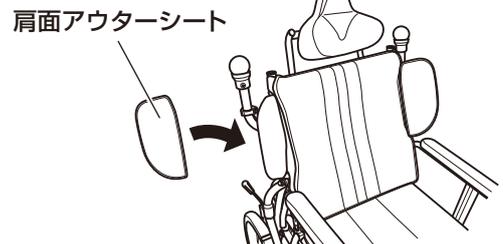
- 1** 背アウターシートの折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせませす。  
背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせませす。



- 2** 座クッションの前後を確認し、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせませす。(座クッション側面にファスナーのある側が後方です。)

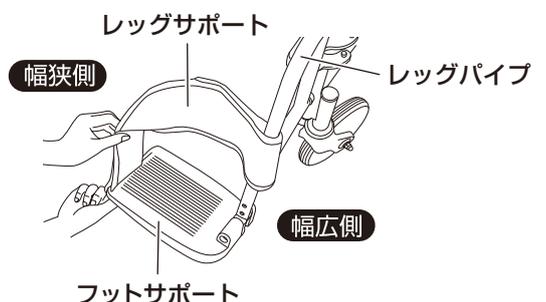


- 3** 肩面アウターシートを左右確認し、インナーシートと貼り合わせませす。



- 4** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻つけ、面ファスナーを貼り合わせませす。

- 5** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みませす。



6 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。

7 反対側も同様の作業を行います。

### ● 取り外しかた

\*取り外しは、逆の手順になります。

## バックサポート（背もたれ）の角度を変える（リクライニング機能）

△危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バックサポート（背もたれ）を倒した状態のときは、使用者の上体を起こさないでください。車いすの重心バランスが崩れ、転倒、転落する恐れがあります。</li> <li>・使用者が上体を起こした状態で、リクライニング操作をしないでください。車いすの重心バランスが崩れて、転倒・転落などの事故やけがにつながる恐れがあります。</li> </ul>
-----	--

△注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。</li> <li>・フレームの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。</li> <li>・両側のアームサポートを上げた状態で操作を行ってください。</li> <li>・介助者が操作する場合、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。</li> <li>・介助者がリクライニング操作を行うときは、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。</li> <li>・ヘッドサポートを収納した状態でリクライニング操作を行う時は、フレームに干渉しないように位置調整を行ってください。</li> </ul>
-----	---

1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。

2 手押しハンドル（介助者用）を握りながら、右手でリクライニングレバーを握ります。搭乗者が操作する場合は、右アームサポート下のリクライニングレバーを握ります。

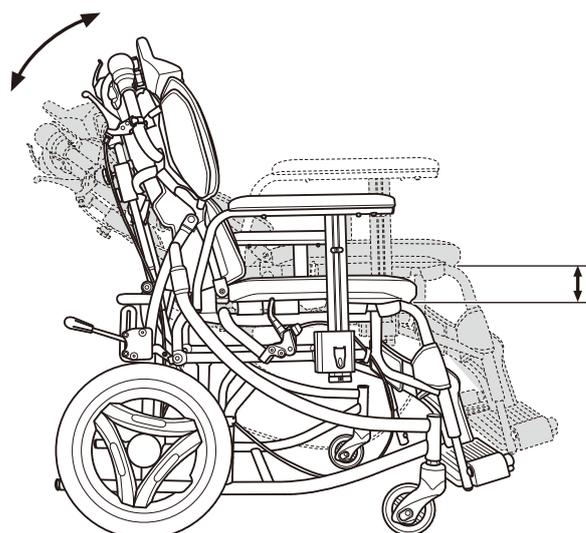


3 リクライニングレバー（介助者用もしくは搭乗者用）を握ったまま、バックサポートの角度を調整します。

\*バックサポートの角度は、105～150°度の範囲で調整可能です。

\*バックサポートの角度に応じて、座面の高さも変わります。

4 お好みの角度が決まったら、その位置でバックサポートを止めたまま、レバーを放します。バックサポートの角度が固定されます。



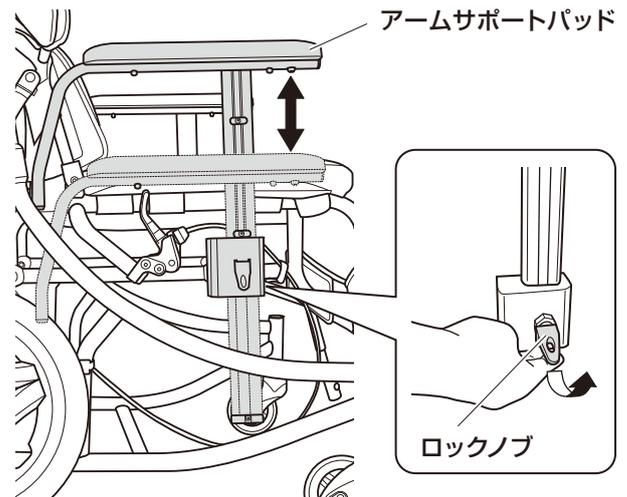
\*レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

## アームサポートパッドの格納

乗り降りの際にアームサポートがじゃまにならないように、アームサポートパッドを下げることができます。

<p>⚠注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さの変更は、使用者の身体および衣服がアームサポートよりも内側にあることを確認してから行ってください。</li> <li>・フレームの可動部には身体および衣服をはさまないように注意してください。</li> <li>・高さを変更した後は、必ずアームサポートがロックされていることを確認してください。</li> <li>・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。</li> </ul>
------------	---

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。
- 2 アームサポートパッドを支えながら、アームサポート外側のロックノブを引いてロックを解除します。
- 3 ロックノブを引いたままアームサポートパッドを上下させて高さを変更しロックノブを放します。
- 4 変更を終えたら、ロックノブを下に倒してロックし、アームサポートパッドを固定します。



\*変更後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。

<p>⚠注意</p>	<p>ロックを解除しているときは、アームサポートが下がる恐れがあります。その際、アームサポートと車いすのフレームの間に指をはさまないように注意してください。</p>
------------	--

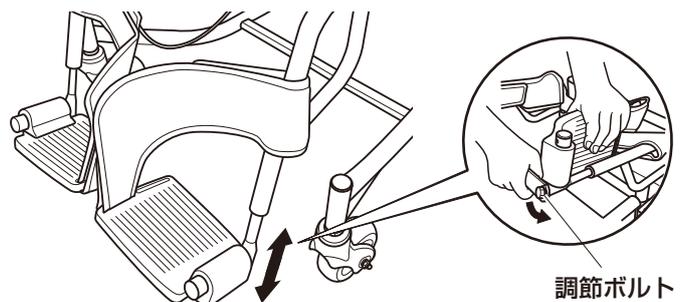
## 各部の調節のしかた

<p>⚠警告</p>	<p>各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。</p>
------------	---

### フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。



\*反対側も同様に調節してください。  
\*フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。

## ヘッドサポートの取り付け・取り外し・収納と調節

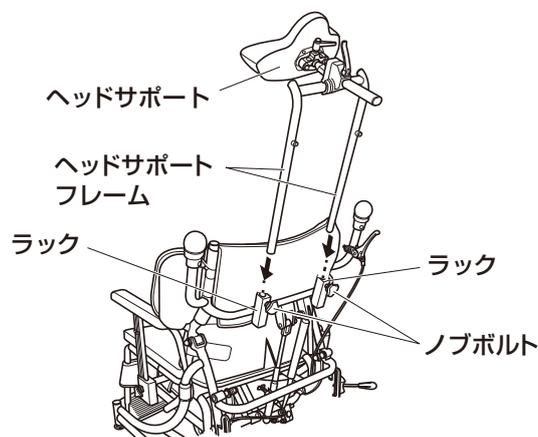
### △注意

- ・ヘッドサポートの着脱は、使用者が乗車していない状態で行ってください。
- ・ヘッドサポートを座面下に収納する際は、主輪やフレーム、床などと干渉しないよう枕部の位置調整を行ってください。

### ● 取り付けかた

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 左右のラックにヘッドサポートフレームを差し込みます。  
\* ノブボルトに当たって入らない場合は、ノブボルトをゆるめてください。
- 3 ヘッドサポートの高さを使用者の頭の位置に合わせ、左右のノブボルトを締め付けて固定します。

\*ヘッドサポートとヘッドサポートフレームにガタつきがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。

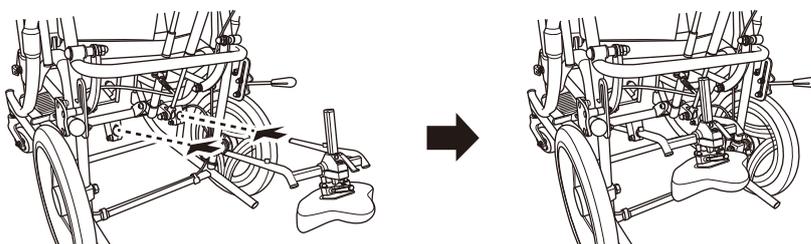


### ● 取り外しかた

取り付けと逆の要領でノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートフレームを上を持ち上げてラックから取り外します。

### ● 収納のしかた

ヘッドサポートを収納する場合は、バックサポートを起こした状態で座面下フレームにあるラックに、後方より差し込みます。主輪やフレーム、床などと干渉しないよう枕部の位置調整を行ってください。

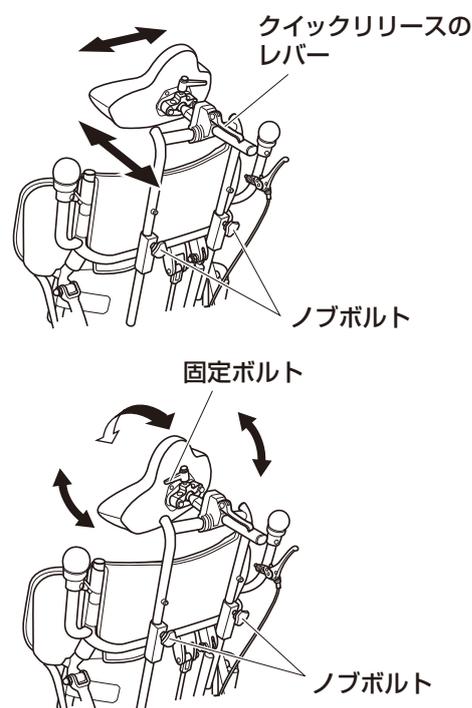


### ● 位置・角度調整のしかた

使用者の体や状態に合わせて、ヘッドサポートを適切な高さ、位置、および角度になるように調節してください。

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートの高さを調節後、ノブボルトを締め付けてヘッドサポートフレームを固定します。
- 3 クイックリリースのレバーを倒します。ヘッドサポートの位置を左右・前後にスライドさせて調節し、レバーを起こして固定させます。
- 4 固定ボルトのレバーを左回りにまわし緩めます。ヘッドサポートの角度を調節し、レバーを右回りにまわし固定します。

\*固定ボルトのレバーを引き上げてまわすと空回りをし、レバーの位置を調節できます。



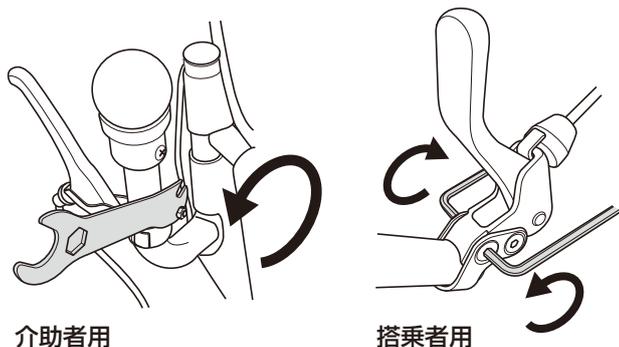
## リクライニングレバー(搭乗者用)の取り付け位置変更

※作業は両輪の駐車用ブレーキをかけた状態で行ってください。

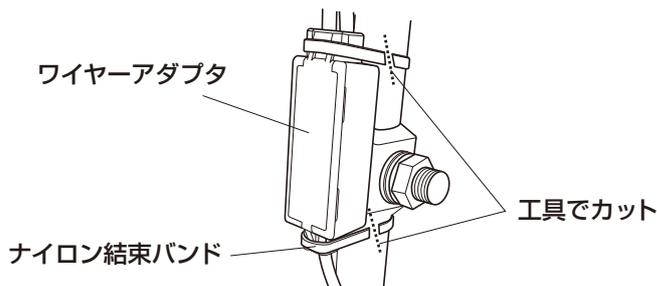
### ● 取り外しかた

〔使用工具〕 8mm スパナ、六角レンチ 4mm 2本

**1** 介助者用と搭乗者用のリクライニングレバーのボルトを緩めて取り外します。



**2** ワイヤーを固定しているマジックテープ結束バンドを取り外します。(計5か所)  
ワイヤーアダプタの両端にあるナイロン結束バンドはニッパーなどの工具でカットします。



### ● 取り付けかた

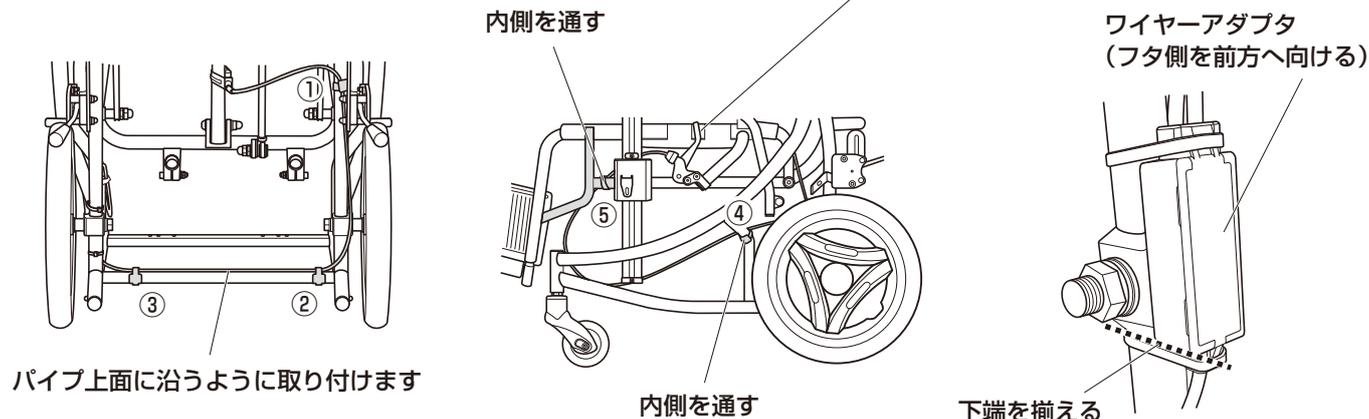
〔ご用意いただくもの〕 ナイロン結束バンド(長さ20cm程度) 2本

**1** 図の①～⑤の5か所をマジックテープ結束バンドで固定し、ワイヤーアダプタをナイロン結束バンドなどで固定します。(ナイロン結束バンドはご用意ください)

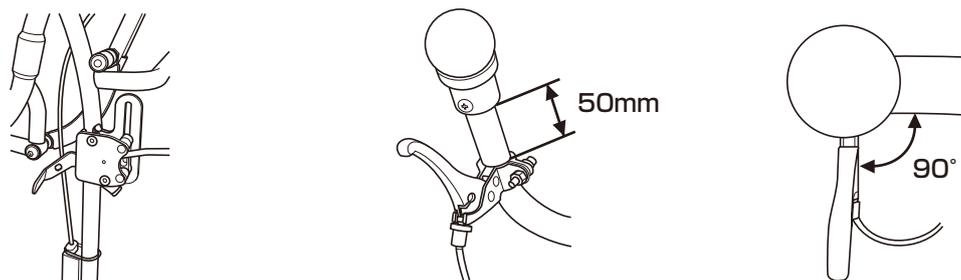
※ナイロン結束バンドはワイヤー部分で固定せず、必ずワイヤーアダプタの先端部分で固定するようにしてください。

#### 搭乗者用リクライニングレバー取付位置

パイプの端面から1mm。  
アームサポートを下げた際にアームサポート固定ボルトとリクライニングレバーが干渉しないように取り付けてください。



**2** 介助者用と搭乗者用のリクライニングレバーを図のように取り付けます。



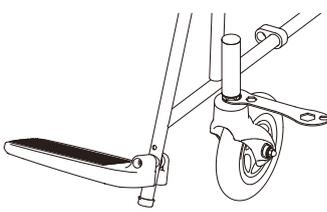
**3** 最後に、リクライニング時、アームサポート昇降時にワイヤーがフレーム等と干渉しないか確認します。

# 使用上のご注意

## 保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

\* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠ 警告	<p>キャストの旋回軸やキャスト・主輪・ブレーキ等は定期的に点検してください。</p> <p>ゆるんでいるときは増し締めをしてください。</p> <p>締めつけトルク：15.0～20.0N・m</p> 
------	--

- ・車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)

## ● 消耗品、交換部品の確認

⚠ 注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
------	---

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。  
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

## 消耗品・交換部品

品名	交換時期
主輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。 タイヤにひび割れなどがみられる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

## お手入れ・保管について

### ● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除き、乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を取り除き、乾かしてください。

### ● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を取り除き、乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

### ● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。  
水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

### ● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。 製品を傷める恐れがあります。</li><li>・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。</li></ul>
------	--

### ● 保管・収納について

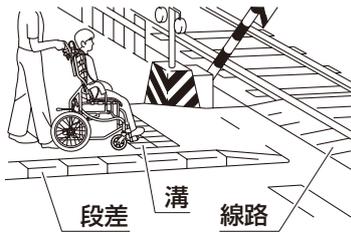
- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

⚠ 注意	車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。
------	--

## 走行上のご注意

※この車いすは室内用で設計されております。  
やむを得ず屋外でご利用の際は以下の点にご注意  
ください。

- ・車いすは歩行者として扱われています。  
車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前  
めりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による  
落輪、キャストの挟み  
込みには充分注意して  
ください。
- ・踏切を通過するときは、  
まわりの安全を確認し  
た上で、停車せずに通  
過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意  
してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によ  
っては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを  
走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合  
があります。充分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、  
傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、  
絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従って  
ください。

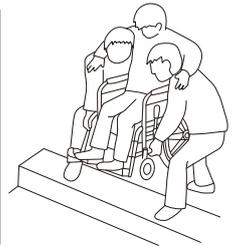


## 段差の乗り越えかた

本製品は、キャストが浮き上がりにくい特性を持った構造です。  
通常的車いすのように手押しハンドルを引くようにして  
キャストを持ち上げようとすると、手押しハンドルに過度な  
負荷が掛かり破損・故障の原因となる恐れがあります。  
本製品に使用者を乗せたまま段差を乗り越えるときは、  
2人以上で行い、車いすの水平を保ちながらフレーム下部  
を両側から持ち上げるようにしてください。

### 警告

車いすを持ち上げる際、持  
つ箇所によっては破損や事  
故につながる恐れがありま  
す。アームサポート、フット  
サポート、手押しハンドル  
などは持たないでください。



## 段の下りかた

本製品に使用者を乗せたまま段差を下りるときは、2人  
以上で行い、車いすの水平を保ちながらフレーム下部を  
両側から持ち上げるようにしてください。

## 飛行機で移送される場合

本製品にガススプリング(ガスダンパー)を使用していることを  
事前に利用予定航空会社または旅行代理店へご相談ください。

# 仕様

(単位：mm)

NEXTROLLER_Salon (ネクストローラー_サロン)			
測定項目		測定項目	
主輪径 (inch)	14"PU	アームサポート高	5/160(55/210) (*1)
キャスト径 (inch)	4"マルチフォーク	全高	1030(背上げ時)867(背下げ時) (900(背上げ時)770(背下げ時)) (*2)
前座高	525/615(475/565) (*1)	全幅	600
後座高	515/605(465/555) (*1)	全長	1010(背上げ時)1200(背下げ時) (945(背上げ時)770(背下げ時)) (*2)
シート奥行	360	リクライニング角度	105~150
シート幅	420	重量(kg)	18.5
バックサポート高	420(470) (*1)		
フットサポート・シート間距離	370~430(320~380) (*1)		

\*1 ( ) 内の寸法はアウターシートを外した状態。 \*2 ( ) 内の寸法はヘッドサポートを外した状態。

\*全長及び全高はヘッドサポートの取り付け位置により変化します。

静的安定性試験方法 (弊社ではJIS T9201 10.1.2a方法によって試験を行っています。)

キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ (UNF1/2-20山) 仕様になります。

## 製造元

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

Wheel Chair  
**Miki** 株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号